

3年生の皆さんへ(2)

3年生の皆さん、お元気ですか？

学校の休業が、また延長になってしまいました。これまでの休業期間、どのように過ごしてきましたか。前回皆さんには、「特に大切なことは、規則正しい生活を送ること。起床時間、勉強時間、就寝時間、この3つの時間を毎日同じにしましょう。」ということをお伝えしました。ちゃんとできていますか。

このところ、新型コロナ関連の暗いニュースが流れてきます。新型コロナそのものだけではなく、外出の自粛や仕事への不安、経済的な不安などによっても、人々の心が荒んできているように感じます。皆さんも、遊びに行きたい、カラオケに行きたい、学校に行きたい、お友達に会いたい、部活がしたい、などなど、様々な思いを抑え込んで生活していることでしょう。我慢しなくてはいけないのは分かるけれども、こう我慢してばかりでは疲れてしまいますね。イライラしたり、気分がひどく落ち込んだりすることはありませんか。おうちの方と喧嘩ばかり、なんてことはありませんか。おうちの方も、生活が変わってしまい、困っていらっしやるのかもしれない。地震とか豪雨などの災害は、もちろん大変なことなのですが、それでも直接にせよ間接にせよ経験のあることなので、どうしたらいいのか、どうなっていくのか、何となく想像もつきます。でも、今回の新型コロナは、SARS や MERS の影響がほとんどなかった日本人にとって、初めての体験です。先行きが見えないというのは、これほど不安なものなのかと、暗澹たる気持ちになります。

とはいえ、嘆いても腹を立てても、どうにもなりません。嘆いたり腹を立てたりして現状が好転するのなら、そうすればいいと思います。でも、そんなことは絶対にありません。あなたの気が晴れることさえ、きつくないと思います。それならば、むしろこの現状を受け入れたほうがいい。そして、この休業期間をどう過ごすことが自分のためになるのか、家族のためになるのか、社会のためになるのか、考えてもらいたいと思います。家族あつてのあなた、社会あつてのあなた、なのですから。

けれども、そんなふうには考えられないよ！という人もいるかもしれませんね。家族のためになろうとか、社会のためになろうとか、そんな発想になるには、自身がある程度満たされていないと難しいのかな、とも思います。

そこでまずは、自分の気持ちを整えることが大切です。音楽を聴くとか、運動をするとか、ゲームをするとか、人によってその方法は色々だと思いますが、そこに「読書」もぜひ加えてもらいたいと思います。図書館は閉まっている、本屋さんには行けない、アマゾンで本は買えるけどお金がない、そんなあなたでも読める本！それは教科書です。「はぁ？」なんて言わずに、最後まで聞いて下さいね。

現代文の教科書、皆さん持っていますね。そこには小説が、それもとびっきりの名作が載っています。けれども、時間の都合により、おそらく授業では取り上げることができません。そこで、この休業期間を活かして読んでみましょう！教科書に載っている、おすすめの小説を二作紹介します。

一つは森鷗外の『舞姫』。舞台は19世紀終わり頃。22歳でベルリンへ留学したエリート官僚豊太郎は、美しい踊り子エリスと出会い、恋に落ちます。豊太郎はそのために職を失いますが、友人相沢の取り計らいにより、再び出世のチャンスが訪れます。愛を取るか、出世を取るか、悩んだ末に豊太郎が出した結論は……？文語体で少し読みにくい文章ですが、人間のエゴイズムについて考えさせられる名作です。

もう一つは小川洋子さんの『トランジット』。フランスから日本への帰途、香港の空港で「わたし」は、フランスへ帰っていく西洋人の男性と出会います。「わたし」の今回のフランス行きは、85歳で亡くなった祖父を弔うためでした。ユダヤ人だった祖父に、フランスでいったい何があったのか……？人と人との出会いの意味を考えさせられる、切ないような温かいような不思議な読後感の作品です。

じゃあ、ちょっと読んでみようかな、という気持ちになってくれたら嬉しいな。そして、学校が再開した時には「あれ読んだよ！」と言ってくれたらもっと嬉しいな。

それでは、辛いときには深呼吸して、ストレッチして、お互い頑張って乗り切りましょう！

文責 第3学年主任 日比野